

団体名	伊勢鉄道株式会社
-----	----------

【経営基本情報】

団体の基本情報

所在地	鈴鹿市桜島町一丁目20番地		
HPアドレス	http://www.isetetu.co.jp		
電話番号	059-383-2112	FAX番号	059-383-2112
設立年月日	昭和61年10月1日		
代表者	代表取締役社長 森井 修治	県所管部等	政策部
県出資額	144,000,000 円	県出資割合	40.0 %
団体の目的	地方鉄道事業 他の鉄道事業者からの委託業務の請負業 道路運送法に基づく自動車運送業 旅行業法に基づく旅行業 貸自動車業及び駐車場の経営 広告宣伝業 損害保険代理業 食堂喫茶店の経営並びに飲食料品及び日用雑貨品小売業 前各号に付帯関連する一切の事業		

主な事業内容

[事業規模(事業費)]

(単位:千円)

事業名	平成19年度	平成20年度	平成21年度	備考
(1) 鉄道事業等	614,158	615,534	592,474	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	
(2)				
全事業合計に占める割合	0.0%	0.0%	0.0%	
(3)				
全事業合計に占める割合	0.0%	0.0%	0.0%	
(4) (1)～(3)以外の事業				
全事業合計に占める割合	0.0%	0.0%	0.0%	
全事業合計	614,158	615,534	592,474	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	

[事業の概要]

- (1) 旅客輸送
- (2)
- (3)
- (4)

役職員の状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	備考
常勤役員	2 人	2 人	2 人	
うち、県退職者	0 人	0 人	0 人	H21平均年齢 : 65.0 歳
うち、県派遣	0 人	0 人	0 人	H21平均年収 : 8,685 千円
常勤正規職員	29 人	31 人	29 人	
うち、県退職者	0 人	0 人	0 人	H21平均年齢 : 59.4 歳
うち、県派遣	0 人	0 人	0 人	H21平均年収 : 4,923 千円
その他職員	4 人	4 人	4 人	パート社員
うち、県退職者	0 人	0 人	0 人	

派遣職員は含まない

団体名	伊勢鉄道株式会社
-----	----------

○財務概況

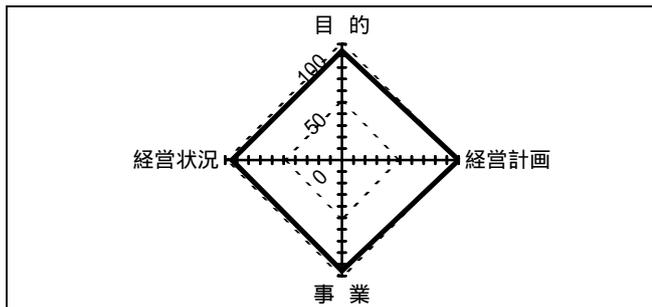
		(単位:千円)	平成19年度	平成20年度	平成21年度
損益計算書	売上高	(a)	614,158	615,534	592,474
		(b)	471,294	471,409	466,803
		(c)	112,843	110,520	107,017
	営業利益(損失)	(d) = (a) - (b) - (c)	30,021	33,605	18,654
	営業外収益	(e)	1,319	744	449
		(f)	3,510	3,018	2,467
		経常利益(損失)	(g) = (d) + (e) - (f)	27,830	31,331
	特別利益	(h)	35,465	291	19,179
		(i)	34,280	0	18,887
		(j)	7,100	13,743	6,957
当期純利益(損失)	(g) + (h) - (i) - (j)	21,915	17,879	9,971	
貸借対照表	資産	流動資産	234,183	269,601	290,667
		固定資産	357,180	325,297	338,979
		繰延資産	7,287	6,711	6,135
	資産合計		598,650	601,609	635,781
	負債	流動負債	90,636	86,336	120,946
		固定負債	61,940	51,320	40,910
		計 (l)	152,576	137,656	161,856
	純資産	資本金(基本金)	360,000	360,000	360,000
		剰余金(累積欠損金)等	86,074	103,953	113,925
		計 (m)	446,074	463,953	473,925
負債・純資産合計	(l) + (m)	598,650	601,609	635,781	

主な指標	自己資本比率	純資産 / (負債 + 純資産)	74.5%	77.1%	74.5%
	流動比率	流動資産 / 流動負債	258.4%	312.3%	240.3%
	借入金依存率	借入金残高 / (負債 + 純資産)	9.6%	7.6%	5.4%
	売上高営業利益率	営業利益 / 売上高	4.9%	5.5%	3.1%
	総資産経常利益率	経常利益 / 資産合計	4.6%	5.2%	2.6%
	人件費比率	人件費 / 売上高	31.0%	32.2%	32.4%

県からの財政的支援等	委託料	千円	0	0	0
	補助金・助成金	千円	17,140	0	18,887
	負担金	千円	0	0	0
	借入金(期中に借り入れた額の合計)	千円	0	0	0
	その他県支出金(追加出資額等)	千円	0	0	0
	計	千円	17,140	0	18,887
	借入金残高(期末残高)	千円	0	0	0
	債務保証額(期末残高)	千円	0	0	0
	損失補償限度額	千円	0	0	0
	損失補償契約に係る債務残高(期末残高)	千円	0	0	0

団体名	伊勢鉄道株式会社
-----	----------

【団体自己評価結果】



	19年度		20年度		21年度	
	比率	評価	比率	評価	比率	評価
目的	94	A	94	A	94	A
経営計画	100	A	100	A	100	A
事業	96	A	96	A	96	A
経営状況	94	A	94	A	94	A

A(90%～100%):良好な事象や傾向がみられる
C(30%～59%):改善を要する

B(60%～89%):やや良好な事象や傾向がみられる
D(0%～29%):大いに改善を要する

【団体自己評価コメント】

平成21年度コメント	
目的	当社は、昭和61年10月に地域の交通利便性確保及び県内地域間の交流拡大・連携強化により県全体の更なる発展を期す事を目的に第三セクターとして設立された。平成21年度の輸送量は、昭和62年度比、普通列車で2.7倍、快速列車の体系整備に伴い、全体でも2.9倍と、設立目的を十分果たしている。
経営計画	当社は、交通事業者の原点である「輸送の安全確保」をメインに、「経営基盤の強化」「増収対策の推進」を計画の柱として取り組んできた。平成21年度においても重大事故の発生は無く、車両設備の改良更新(2両)等の安全施策も全て計画通り進捗した。また、厳しい経営環境ではあったが、F1輸送を含め、JR東海との連携施策も着実に定着し、効果を上げている。
事業	平成20年度より続く経済不況や新型インフルエンザの発生に伴う出控え、千円高速の実施等により直通列車の輸送量が大きく落ち込み、総輸送量は1,599千人と、目標を3.8%下回った。また、定期旅客も、景気低迷や少子化等の影響により前年度比97%と落ち込んだ。
経営状況	輸送量の減少に伴い、旅客収入は前年度比23,000千円の減収となったが各種経費の節減に努め、16,636千円の経常利益を確保できた。厳しい経営環境の中、経常黒字は平成18年度以降4年連続となり、旧国鉄から転換した全国の第三セクター鉄道の中では特筆される。
総括コメント	昨年10月、台風18号に伴う大雨により、伊勢上野～河芸間の線路のり面が一部崩壊する災害が発生したが、迅速な復旧作業により列車への影響は殆ど無く対応できた。その他、重大な運転事故やインシデントの発生は無く、経営の根幹である「安全輸送」を確保することができた。また、厳しい事業環境の中、収入は対目標99%となったが、経費を97%に削減するなどの経営努力により、経常利益は目標を大きくクリアした。中長期目標である車両設備の改良更新や老朽化した通信ケーブルの改良などの安全投資についても計画通り推進中である。

【団体の達成目標】

年次事業計画による達成目標
(定性目標)

平成21年度目標	車両設備の改良更新(ATS-PT新設、運転状況記録装置新設、防護無線バックアップ設備新設) ホーム修繕 要員の確保 F1輸送の無事故完遂 環境経費の削減
平成21年度実績	計画通り完了(2両、 2駅) 駅員:3名、運転士:2名採用(当期中の退職者:5名) 3年振りの輸送だったが、無事故で完了 社員による全体作業により、約12,000千円節減(沿線の除草・雑木伐採 20回/年)
平成22年度目標	鉄道運転事故及び旅客の死傷事故の防止 車両設備の改良更新(ATS-PT新設、運転状況記録装置新設、防護無線バックアップ設備新設) 通信ケーブル改良 要員の確保 F1輸送の無事故完遂

(定量目標)

指標	数値目標	単位		平成20年度	平成21年度	平成22年度
輸送人員	1,581	千人	目標	1,638	1,662	1,581
			実績	1,659	1,599	
収入	581,220	千円	目標	620,097	601,470	581,220
			実績	616,278	592,923	
経費	583,720	千円	目標	606,684	596,120	583,720
			実績	584,947	576,287	

中長期計画による達成目標

鉄道運転事故及び旅客死傷事故の無事故継続
通信ケーブル改良(H20～H23)
車両設備の改良更新(ATS-PT新設、運転状況記録装置新設、防護無線バックアップ電源設備新設 H21～H22)
F1輸送の無事故完遂(H21～)

団体名	伊勢鉄道株式会社
-----	----------

【知事等の審査及び評価結果】

+ : 団体自己評価結果に比べて高く評価(良好な点が認められる)
 - : 団体自己評価結果に比べて低く評価(課題が認められる)
 空白: 団体自己評価結果と概ね同じ評価

	19年度	20年度	21年度	21年度コメント
目的				関西本線の河原田を起点に紀勢本線の津を短絡する鉄道であり、名古屋と三重県内を結ぶ幹線輸送の一端を担う「地域の移手段」として重要な路線である。
経営計画				「輸送の安全確保」をメインに「経営基盤の整備」「増収対策の推進」を計画の柱として取り組んでいる。平成21年度においても重大事故の発生はなく、「輸送の安全確保」に関する具体的諸施策6件も計画通り進捗している。また、JR東海との連携強化を柱に経営改善にも取り組んでいる。
事業				3年ぶりのF1開催に伴う集客はあったが、平成21年度の営業成績は、対前年度比で利用客は96.4%、旅客収入は96.1%と若干の減少となっている。この中で、普通列車の利用については、堅調に推移し、対前年度で101%であった。
経営状況				平成17年度からJR東海との連携を強化し経営改善に努めている。その結果、平成18年度以降は4期連続の黒字基調を継続している。利用促進策として、快速列車の鈴鹿駅全列車の停車と平成17年度からの「快速みえ得ダネ4回数券」を活用した利用推進による伸びが認められ、また、経営努力によって黒字基調を継続できた点は評価できる。

(知事等の総括コメント)

沿線の宅地化による地元での利用が増え、経営状況が堅調に推移しているという傾向はあるが、利用者の大半は特急・快速を利用したJRの直通列車(特急、快速)利用者であり、伊勢鉄道の経営はこの状況に左右されている。また、社会状況の変化(高速道路の料金施策等)により輸送人員や収入が大きく変わる恐れがある。

主力である快速列車のさらなる利用促進やJR東海との連携強化による経営の安定化を図るとともに、施設の老朽化に伴う維持更新などの課題を解決していくことにより、利用者の安全・安心の確保や利便性の向上に努めていく必要がある。